

## 聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

- ① デザインの一貫性：数秘術に見られる神の原則
- ② ダイナミックな多角的、立体構造：背後に神意 [偶然はない]
- ④ 眞<sup>まこと</sup>の神の預言：成就の確かさ
- ⑧ ひな型、予型：最初の人アダム、最後のアダム

## 使徒パウロの宣教 その20

## 『コリント人への手紙第一』

## 14-16章

## 14章20-25節

☆パウロが引用した聖句は北王国の指導者の不屈きな姿勢が描かれたイザヤ書28：9-13が背景

★神の言葉をさげすんだ北王国に対し、主の単純明快なメッセージを聞こうとしないなら、主はもはや理解できる言葉ではなく、「もつれた舌」（異言）でしか話されないであろう

★神がここで、理解できない外国語で語られたのは、「聞く耳のない者」に対して、すなわち、「信者」ではなく、不信仰なイスラエル「不信者」に対してであった

☆パウロ、今コリント教会で起こっている現象を見分ける基準をヘブル語聖書から提示、

「異言」がむしろ、信じない者に対する神の譴責として用いられたことを強調

☆神の言葉が明確に告げられる「預言」は、初心者たちにも重要であった

☆神のご臨在に触れて、罪を自覚させられた者が神の御前にひれ伏すのは、自分の価値のなさが露わにされた結果

★罪を深く悔い改めることは、救いと聖霊の内なる満たしにあずかるための必要条件

## 26-40節

## 御霊の賜物を用いるうえでの安全弁

①神からの超能力が発揮されるのは、他人の徳を高める相互関係においてであることを知る

②現象の真偽を見分ける正しい基準を知る

1. 「イエスは主です」と告白する霊は正しい神の御霊
2. 教会内に一致がある
3. 賜物を行使する者を支配するような霊は、悪霊、偽りの霊
4. 御霊の賜物が用いられるときには、秩序がある

③神の権威の下にある「使徒パウロ」が提示した基準に従うか否かで、現象の真偽が分かる

☆教会の賛美、礼拝は、感情的な叫び、おしゃべりで混乱に陥められてはならない

## 礼拝時、異言を語るべきの制約

1. 人数：二、三人
2. 秩序：各々が順番に
3. 解釈：啓蒙のために必須
4. 沈黙：解釈がない場合、異言で語らない
5. 献身：個人的に神に異言で話すことは自由

：34-35「教会では、妻たちは…語ることを許されてはいません…」（下線付加）：

★ギリシャ語動詞 ‘λαλέω ラレオー’ は、公で話すことについてではない

★男たちの質疑応答の場で、女が男に意見をさしはさむことは制止された

## 聖書

- \*シナゴグでの礼拝形式は、創世記2：18-24に基づいて踏襲された
- \*パウロの主張は「慣習を守りなさい！」
- \*ギリシャ人の間では、女が公で発言することは抑制されていた

## 15章

## 福音の定義

1. キリストは私たちの罪のために死なれた
2. キリストは埋葬された
3. キリストは三日目に甦られた
4. キリストは甦り後、姿を顕された

☆全人類史の中で、キリストの死は、最も詳細にわたって文書に記述された処刑  
 ☆死、埋葬、甦りのうち三番目の甦り、パウロが「福音」として定義した頂点

：4「また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと」：

- \*埋葬は死の現実を示し、未来に向けて、霊の身体への甦りを指し示す
- \*使用ギリシャ語は、キリストの死と埋葬は過去時制、「甦る」は完了形
- †キリストは、生き続けておられる

## 聖書の示すとおりに、三日目に

☆ヘブル語聖書、さまざまな「救いの三日目」を預言

- ★ヨナの体験 →ヨナ書1：17、マタイ12：40
- ★アケダー →創世記22章、ヘブル人11：19
- ★ラハブの赤いひも →ヨシュア記2：15-18

☆パウロ、甦られたキリストが女たちに顕れたことをリストに入れていない

- ★ユダヤ人の律法、女を証人として認めていない

：7「その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました」：

- \*ヤコブを含めたキリストの弟たち、キリストの死の半年前はキリストを信じていなかった
- 主の昇天の直後、キリストを信じ、それ以降、使徒たちとともに心一つにして祈っていた

：8-9「…最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも…」（下線付加）：

- \*パウロ、同胞イスラエル人に先んじて、新生のキリスト者になった
- \*来るべき「とき」、一イスラエルが国家的に回心する未来の「とき」— の前を描写
- \*パウロ、自分を使徒職に最もふさわしくない者とみなした
- エペソ人3：8、テモテ第一1：15

## 12-19節

☆ピレトやヒメナオ、身体の甦りの教理を否定、人々の信仰を滅ぼした

- テモテ第二2：17-18

☆甦りがなければ、キリストによる贖いの福音もない

- ★しかし、甦りの否定は、初代教会が入手できたすべての証拠に反する

☆信徒の義認は、キリスト・イエスの甦りに完全に依存

☆パウロ、キリスト者にとって死は獲得、「益」であると確信 →ピリピ人1：21、：23

## 20-22節

☆穀物の初穂で、引き続き残る収穫が期待されたように、

- キリストは、ご自分に属するすべての者が甦りにあずかることの保障となられた

☆すべての人は死の懲罰を受ける「罪人」

- ★「人」によって引き起こされた死は、人によってのみ無効にされうる →ローマ人5：12、：18
- ★「ゴエル」—買戻しの権利のある親類— によってのみ、「死」は無効にされる

：23「…順番があります。まず初穂であるキリスト、次に…キリストに属している者です」：

- \*パウロ、キリストと信徒の甦りに言及、未信者の甦りには言及していない
- \*キリストを受け入れずに死んだ人たちの霊魂は最後の審判のときに復活させられるまで黄泉で保たれる
- \*究極的には未信者も、恥と永久の侮辱のために、復活させられる →ダニエル書12：2

## 聖書

## キアズム構成

☆24-28節の文脈

A 24節 → B 25節 → C → D → E 26節 ← D 27節 ← C ← B ← A 28節

☆中心のメッセージは、E 26節「最後の敵である死も滅ぼされます」

: 24-27「それから終わりが来ます…最後の敵である死も滅ぼされます…」(下線付加) :

\* 終わりは、信徒の死ぬべき身体が「不死を着るとき」

\* 大きな白い御座での裁きの後、死とハデスは火の池に投げ入れられ、死はもはや存在しない

\* すべてのものがキリストに従うとき、キリストは御国を父に手渡され、

キリストの仲介者としての御働きは終わりを告げる

: 29「…死者のゆえにバプテスマを受ける人たちは、何のためにそうする…」(下線付加) :

\* キリストと使徒の教えの中に、「死者のために執り成しをする」類のことは、

決して含まれていなかった

\* パウロ、ここで「死の後に永久への魅りが無いのなら」、

「なぜ、信徒たちは死に至るまでキリストに忠誠の歩みをするのか？」と、問いかけた

: 32-34「もし、私が人間的な動機から、エペソで獣と戦ったのなら…」(下線付加) :

\* デメテリオと彼の仲間たち、パウロに対し「野生の獣」のようにふるまった

→使徒の働き19:23-41

\* パウロ、人々がいかにかたやすく、ゆがめられた教義や生活様式を受け入れるかを警告

: 35-37「…『死者は、どのようにしてよみがえるのか…あなたが蒔く物は…種粒です』 :

\* 「死んだ」種から発生するのは、もっと栄光あるもの

: 38-39「…神は…おのおのの種にそれぞれのからだをお与えになります…人間の肉も…」 :

\* 生き物は、自分の意思で発生するのではなく、ただ神の御旨による

## 六は人の数

☆「人」の独自性を物語る、潜在的な特性は何か？

\* 人のあらゆる有核細胞上に「抗原」と呼ばれる「小さな目じるし」、

リポ蛋白質、—正式な名称は「組織適合性抗原」—がある

☆人はみな、人としてのしるしのある特定の染色体、—染色体#6—の産物

: 40-41「また、天上のからだも…地上のからだも…太陽の栄光も…星の栄光もあり…」 :

\* 神は、そのすべてを名によって知っておられる

: 43「卑しいもので蒔かれ…弱いもので蒔かれ…」(下線付加) :

\* 「墮落に蒔かれた」、エントロピー[無秩序の度合いを示す物理量]への言及

\* 全創造は「崩壊の拘束」に服している

\* この世の人にとって、埋葬は「死の呪い」の覚え

\* しかし、信徒にとって、埋葬は未来の魅り(収穫)を期待して「蒔くこと」の象徴

\* 信徒は、すでにこの永久の生命を得ている

: 44-49「血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです…」 :

\* 魅り後の新しい身体は、異なった次元のもの

## キリストのからだ

1. 教会、一個々の信徒—は「キリストのからだ」と呼ばれる生きた有機体

2. すべての信徒は、イエス・キリストとの生きた結合、また、信徒同士の結合に加えられた

3. 信仰告白が教会、—‘Εκκλησία エクレシア、קְהָלָה クアハール’—の基盤

\* 「第一の人」、「最初の人アダム」はすべての人類の「ひな型」、人類はアダムの写し

\* 「最後のアダム」、「第二の人」キリストは信徒の「ひな型」、信徒はキリストの写し

: 52「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです…」(下線付加) :

\* ‘άτμος アトモス’は、分割できない単位

\* 「死人が魅り、人が不死になる」とき、終わりのラッパが吹き鳴らされ、主が再臨される

## 聖書

: 54-55 「…『死は勝利にのまれた』とするされている、みことばが実現します…」 :

\* イザヤ書25:8からの引用

\* 黙示録21:1-4は、この預言、一死の撲滅—の成就を神の永久の御国の樹立に関連づけ  
⇒ 主の再臨には、

甦り、携挙、裁き、永久の御国の始まり……一連の複雑な出来事のすべてが伴われる

: 58 「…堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい…」 :

**私たちは、どのように生きるべきか**

☆ 『聖書』は、すべての人の全人生のための羅針盤

☆ 信徒はキリストにある勝利の確信を、何ものにも奪わせない

## 16章

### 十一献金

1. 律法授与の前に制定された

→ 創世記14:20

2. 献げる四つの理由

① 創造者の権利を認識、—十分の一は神のもの—

② 食欲に対する解毒剤

③ 信仰のテスト

④ 諸々の財政問題への解決策

3. ヘブル語（旧約）聖書での模範

→ レビ記27:30-32

4. 新約聖書でも容認

→ マタイ23:23

5. より特権にあずかっている者にはより義務的

→ ルカ12:48

: 5-8 「…あなたがたに送っていただくと思うからです…主がお許しになるなら…」 :

\* 主の民は、計画を神の御旨に服させるべき

→ 使徒の働き18:21、ヘブル人6:3ほか

\* 主とともに歩む信徒は、主の采配に委ねることが大切

→ ヤコブ4:13-15

: 9 「…働きのための広い門が私のために開かれており、反対者も大ぜいいるからです」 :

\* 主にある大なる働きが妨害されないことは、決してない

\* パウロ、宣教のためいつも「爆心地」に向かう

### 15-18節

☆ コリントの人たちとは対照的な奉仕の良い例証

☆ 「労苦」とは目標を達成するため、長く労して働くこと

\* 多くの者は労働するが、労苦する者は少ない

\* 労苦は認められるにふさわしく、ねぎらわれるべき

: 21 「パウロが、自分の手であいさつを書きます」 :

\* パウロ、テサロニケ人第二2:2で「私たちから出たかのような手紙」に言及

\* おそらく、偽造文書から教訓を学んだ

→ テサロニケ人第二3:17

: 22 「…主よ、来てください」 :

\* 「マラナタ」はアラム語